

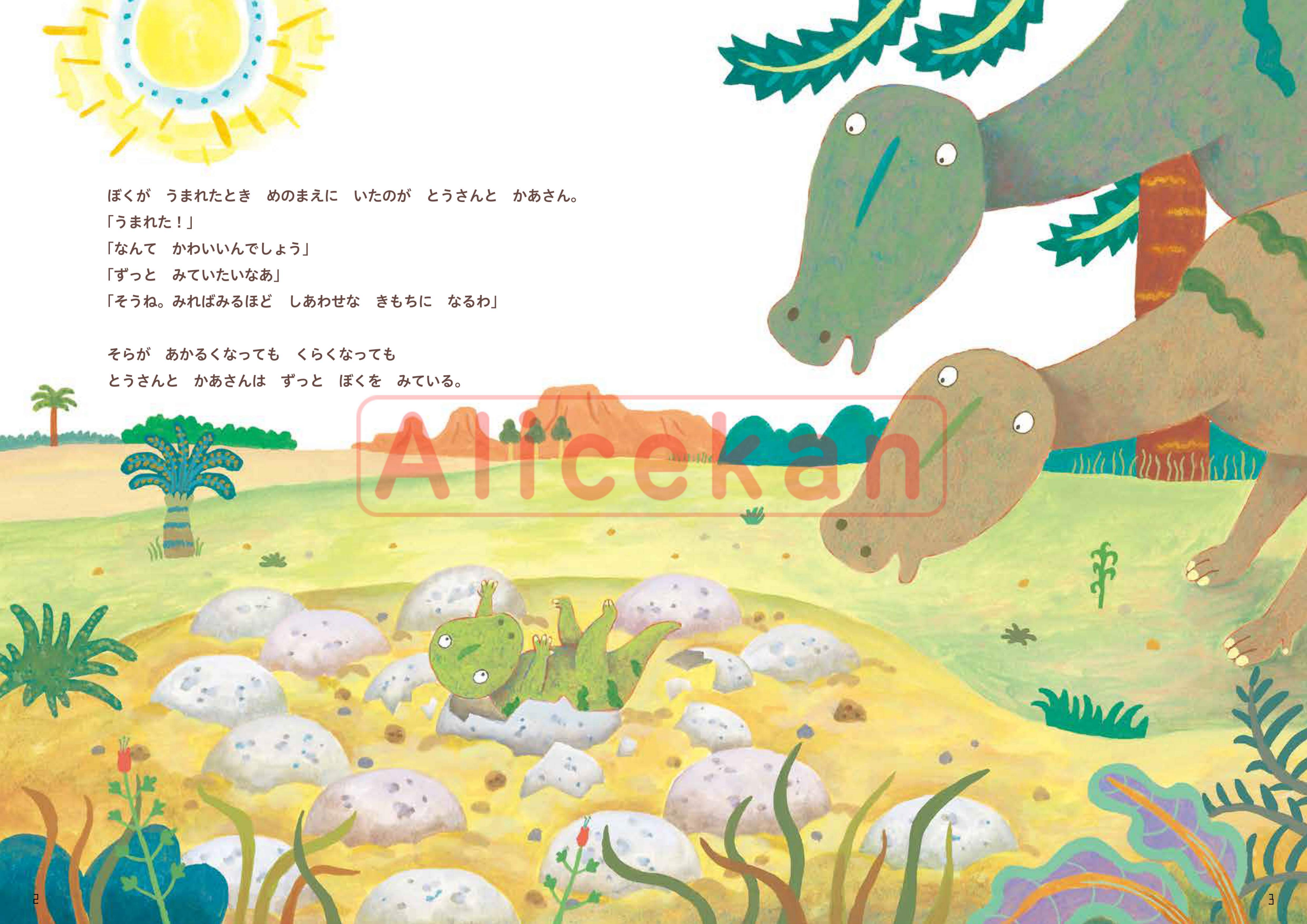
きょうりゅうのサン

# きょう ぼくは たまごを もらった

文 かさい まり 絵 星野 イクミ



ぼくは 15 この たまごの なかで  
いちばん さきに うまれた。



ぼくが うまれたとき めのまえに いたのが とうさんと かあさん。

「うまれた！」

「なんて かわいいんでしょう」

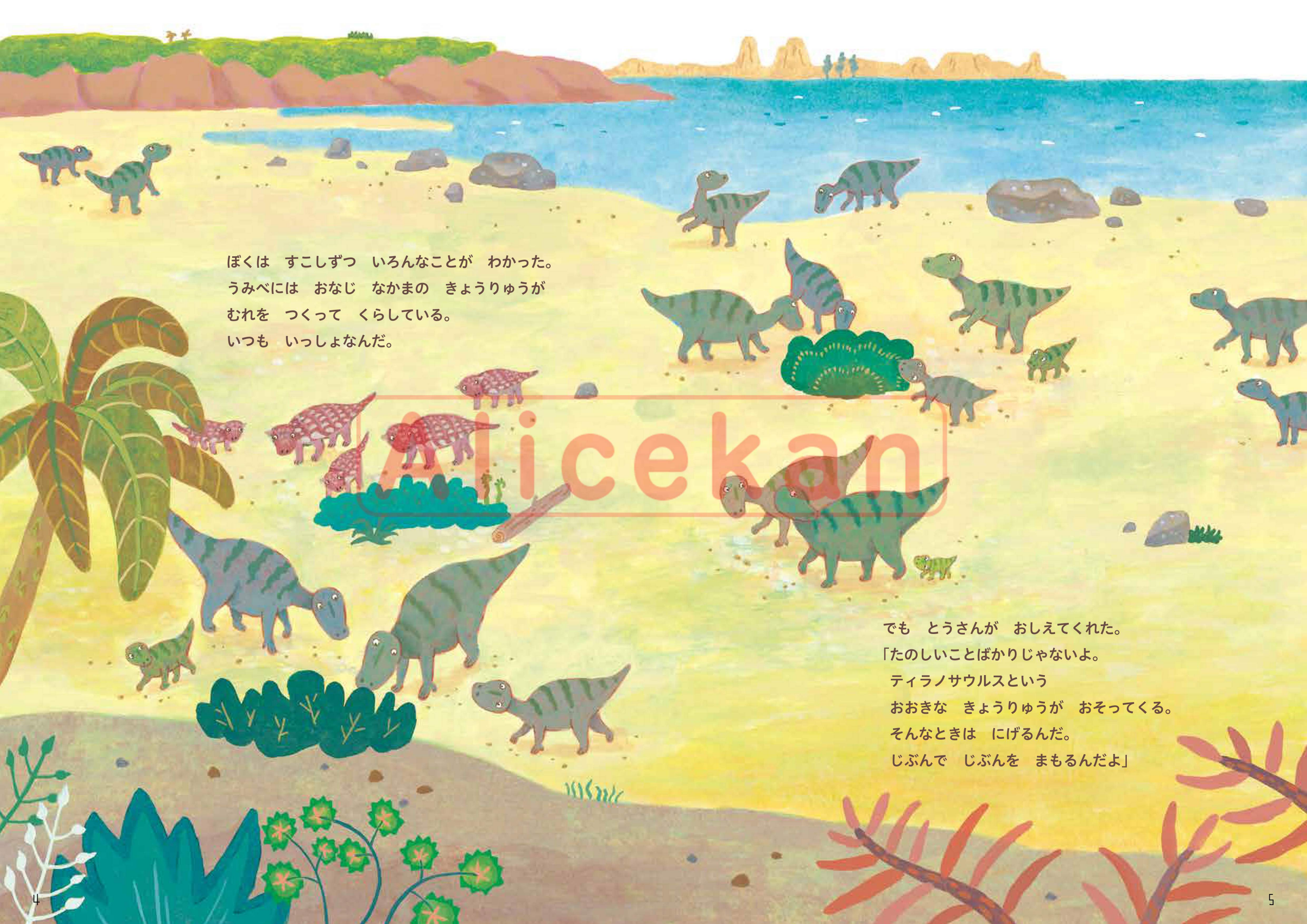
「ずっと みていたいなあ」

「そうね。みればみるほど しあわせな きもちに なるわ」

そらが あかるくなっても くらくなっても

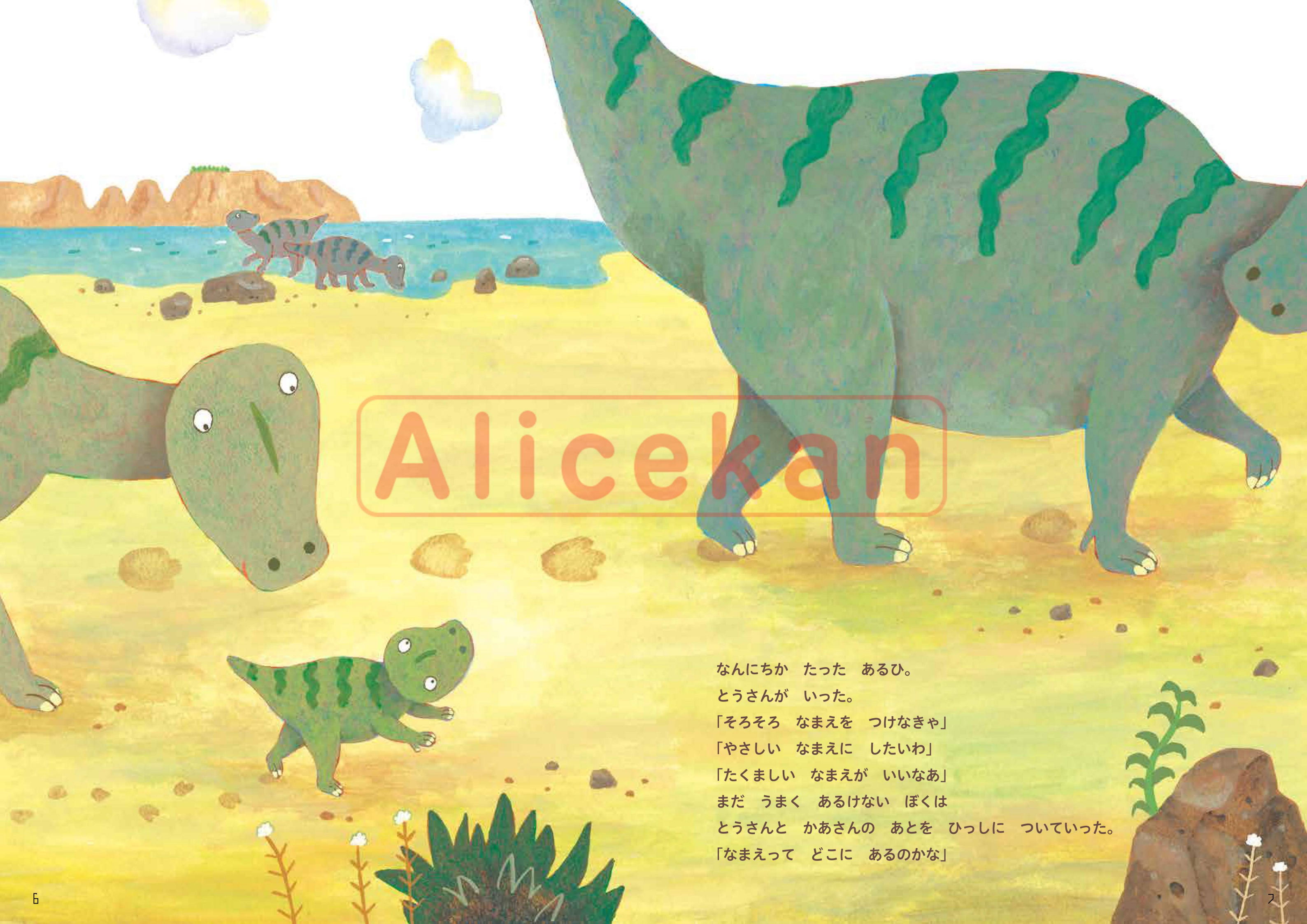
とうさんと かあさんは ずっと ぼくを みている。

Alice kan



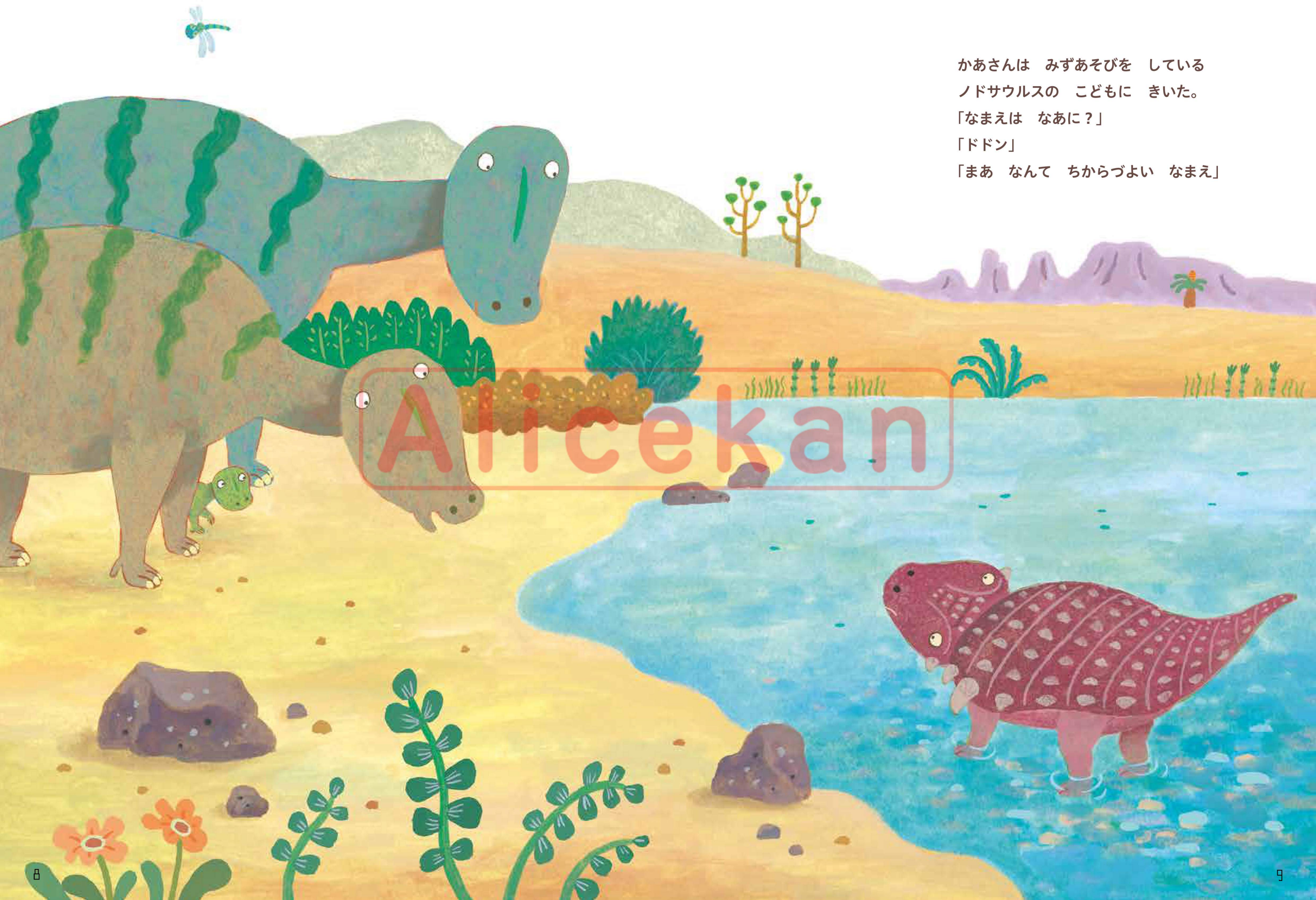
ぼくは すこしずつ いろんなことが わかった。  
うみべには おなじ なかまの きょうりゅうが  
むれを つくって くらしている。  
いつも いっしょなんだ。

でも とうさんが おしえてくれた。  
「たのしいことばかりじゃないよ。  
ティラノサウルスという  
おおきな きょうりゅうが おそってくる。  
そんなときは にげるんだ。  
じぶんで じぶんを まもるんだよ」



# Alicekan

なにちか たった あるひ。  
とうさんが いった。  
「そろそろ なまえを つけなきゃ」  
「やさしい なまえに したいわ」  
「たくましい なまえが いいなあ」  
まだ うまく あるけない ぼくは  
とうさんと かあさんの あとを ひっしに ついていった。  
「なまえって どこに あるのかな」



かあさんは みずあそびを している  
ノドサウルの こどもに きいた。

「なまえは なあに？」

「ドドン」

「まあ なんて ちからづよい なまえ」

Alice Kan